

中学校  
1年/技・家

## 情報モラル（こんなメールが来たら…）

～デジタル教材を活用し、情報モラルについて考える～

実践者 大崎市立田尻中学校 山口 英雄

### 1 学習の概要

#### 単元名

情報とコンピュータ「情報モラルとコンピュータの利用」

#### 単元の目標

チェーンメールが他の人に迷惑をかけることを理解させ、携帯電話などのコミュニケーションツールを適切に扱おうとする態度を育成する。

#### 本時の学習

##### 学習活動

- 1 携帯電話の利用状況、メールの便利な点を発表する。
- 2 デジタル教材の場面2-2までを視聴する。
- 3 主人公の行動を予想し、発表する。
- 4 場面6-1までを視聴し、情報の真偽の確認について考える。
- 5 まとめを視聴し、チェーンメールの対処法の説明を聞く。
- 6 いじめに関わるメールが来たことを想定して、どう行動するかを考える。
- 7 感想を記入する。

##### 指導上の留意点

- 事前調査を行い、携帯電話及びメールの使用状況を把握しておく。
- 他の人に転送するかどうかという観点で考えさせる。
- 「マメルこそ何で俺によしたんだよ」のあとの画面を隠し、考えさせる。
- 真偽を確かめないで転送したことが問題点であることに気付かせる。
- チェーンメールの具体的な例文を準備し、紹介する。
- 対面での会話の大切さに気付かせる。

##### 本時活用機器・コンテンツ

- ・教師用PC ・ビデオプロジェクター
- ・マグネットスクリーン（普通教室で実施）
- ・みやぎの情報モラル総合サイトオリジナルデジタル教材  
(<http://midori.edu-c.pref.miyagi.jp/moral/>)

##### 補助資料等

- ・ワークシート、メールの文（いじめに関わるもの）

### 2 学習のポイント

#### ・生徒の実態に合わせた授業

本授業は、第1学年のある学級で行った。携帯電話のメールを利用している生徒は学級の3分の1程度であった。

生徒の携帯電話の使用状況が同じでないことを考慮し、使用経験のある生徒に具体的なメリットを発表させることにした。メールのデメリットだけでなく、メリットも伝えながら、情報機器を有効に活用しようとする態度を育てたいと考えた。



#### ・動画をアレンジして見せること

今回使用したデジタル教材はFLASH動画である。発問に合わせて、動画を止める必要を感じた。その場面では、画面を最小化して見せ、生徒に主体的に考えさせるようにした。



#### ・内面に訴える指導

本授業は技術・家庭の授業として行ったが、情報モラルは「情報を適切に扱おうとする態度を育てること」と考え、道徳の授業のイメージで進めた。

### 3 学習のまとめ

#### ・生徒の感想より

「チェーンメールには自分はひっかからないと思っていたけど、たくさん内容でひっかかってしまうかも知れないと思った。自分はケータイを持っていないけど気をつけようと思った。それにしても何でこんなメールを作った人は何がいいんだ。他の人をまきこんで何が楽しいんだ。自分は良くても他の人は迷惑なんだと思った。」

この生徒の感想は心情的なものである。今回道徳的なイメージで授業を進めたためであると考えられる。しかし、情報モラルについては、具体的な行動としての考えを生徒が持てるようにしていくことが必要であると感じた。

中学校  
1年/技・家

## 情報モラル（こんなメールが来たら…）

～デジタル教材を活用し、情報モラルについて考える～

実践者 大崎市立田尻中学校 山口 英雄

## 1 学習の概要

### 単元名

情報とコンピュータ「情報モラルとコンピュータの利用」

### 単元の目標

チェーンメールが他の人に迷惑をかけることを理解させ、携帯電話などのコミュニケーションツールを適切に扱おうとする態度を育成する。

### 本時の学習

#### 学習活動

1. 携帯電話の利用状況、メールの便利な点を発表する。
2. デジタル教材の場面2-2までを視聴する。
3. 主人公の行動を予想し、発表する。
4. 場面6-1までを視聴し、情報の真偽の確認について考える。
5. まとめを視聴し、チェーンメールの対処法の説明を聞く。
6. いじめに関わるメールが来たことを想定して、どう行動するかを考える。
7. 感想を記入する。

#### 指導上の留意点

- ・事前調査を行い、携帯電話及びメールの使用状況を把握しておく。
- ・他の人に転送するかどうかという観点で考えさせる。
- ・「マモルこそ何で俺によこしたんだよ」のあとの画面を隠し、考えさせる。
- ・真偽を確かめないで転送したことが問題点であることに気付かせる。
- ・チェーンメールの具体的な例文を準備し、紹介する。
- ・対面での会話の大切さに気付かせる。

・パソコン、プロジェクター、マグネットスクリーン（普通教室で実施）  
 ・みやぎの情報モラル総合サイトオリジナルデジタル教材  
 （<http://midori.edu-c.pref.miyagi.jp/moral/>）

・指導案、ワークシート、メールの文（いじめに関わるもの）

#### 補助資料等

## 2 学習のポイント

### ・生徒の実態に合わせた授業

本授業は、1年生のある学級で行った。携帯電話のメールを利用している生徒は学級の3分の1程度であった。生徒の携帯電話の使用状況が同じでないことを考慮し、使用経験のある生徒に具体的なメリットを発表させることにした。メールのデメリットだけでなく、メリットも伝えながら、情報機器を有効に活用しようとする態度を育てたいと考えた。



### ・動画をアレンジして見せること

今回使用したデジタル教材はFlash動画である。発問に合わせて、動画を止める必要を感じた。その場面では、画面を最小化して見せ、生徒に主体的に考えさせるようにした。



### ・内面に訴える指導

本授業は技術・家庭の授業として行ったが、情報モラルは「情報を適切に扱おうとする態度を育てること」と考え、道徳の授業のイメージで進めた。

## 3 学習のまとめ

### ・生徒の感想より

「チェーンメールには自分はひっかからないと思っていたけど、たぐみな内容でひっかかってしまうかも知れないと思った。自分はケータイを持っていないけど気をつけようと思った。それにしても何でこんなメールを作った人は何がいいんだ。他の人をまきこんで何が楽しいんだ。自分は良くても他の人は迷惑なんだと思った。」

この生徒の感想は心情的なものである。今回道徳的なイメージで授業を進めたためであると考えられる。しかし、情報モラルについては、具体的な行動としての考えを生徒がもてるようにしていくことが必要であると感じた。